

2-2 職業について知る

進路情報

1. 題材設定の理由

大多数の生徒が中学校卒業後の進路として高校への進学を希望しているが、職業そのものについては意外と知らないことが多い。そこで、自分の希望している職業や興味のある職業について学ぶことを通して、職業に対する理解を深めたい。その上でこそ、自分の進路計画をより深く考えることができると思われる。

また、この授業を通して、自分が目指す職業の意識化を図り、職場体験などを通して積極的に職業を知ろうとする姿勢を育てたいと考え、この題材を設定する。

2. 指導のねらい

進路計画をより確かなものとするために、各自が調べたい職業について理解を深め、職場体験や職業調べなどへの意欲を高めることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・自分が将来なりたい職業や興味ある職業、知っている職業を書いてくる。
本時	・自分が調べたい職業についての知識理解を深め、職業調べに対する意欲を高める。
事後	・職場体験学習や職業調べの意義を明確にし、次の活動に生かす。 ・職業に対する興味の低い生徒について個別指導を行い、職業を考えるきっかけとする。

〈備考〉

P.72・P.73の「職業分類表」について

総務省統計局統計基準部による「日本標準産業分類」と「日本標準職業分類」に基づくもので、国勢調査などに利用されている。

「日本標準職業分類」は最近では平成 21 年 12 月に改訂されており、職業変化に基づいて修正が行われている。大分類は P.72・P.73 にある 11 項目に、「分類不能の職業」を加えた計 12 項目であり、その下に中分類として 74 項目がある。

＜説話例＞

「調べていくうちに本物になった」

ある学校の修学旅行は体験学習を入れています。東京の養護学校へ行くのです。その生徒はもっと楽しい所へ行きたくて養護学校は希望していませんでした。しかし、人数の制限もあり、養護学校へ行くことになってしまいました。あまり乗り気ではなかったのですが、当然事前学習があり、毎日福祉活動や障害のことなどの調べ学習を続けていきました。最初は乗り気ではなかったのが、自

分の知らない世界を見てどんどん積極的になり、自分から資料を集めたり養護施設に電話して取材したりするようになり、いちばん積極的な姿に変わっていきました。このことがきっかけとなり、この生徒はその後高校を出て福祉関係の仕事に就きたいと強く思うようになり、現在福祉施設の介護士として、ファイト満々で働いています。

みなさんもこの世の中のいろんな職業について調べてみませんか。意外に自分に合った職業が見つかるかもしれませんよ。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・職業についての理解を深めることの意義について知る。	◎P.26①の資料を読んで、N子さんの受験を前にした不安や後輩への思いについて話し合う。 ・夢がないと勉強に身が入らず、無駄な時間を過ごす。 ・小さな目標でもいいので、夢をもつことが大切だ。 ・今から職業について考えなければいけない。	・P.26①の資料の中の夏の高校見学会などの説明を加える。	・P.26①
	課題：職業について理解を深め、自分の進路計画に役立てよう。			
中心 的な 活動	・職業に対する関心をもつことができる。 ・仕事の内容を自分の進路計画と照らし合わせて検討させる。 ・職業について知りたいことを書き出して、どんな方法で調べることができるか考えさせる。	◎P.26②の仕事は、どんな職業か記入する。そして、班で話し合い、①～⑮は、どんな職業かうめる。 ①会社事務、一般事務員など ②銀行、会計士、税理士など ③セールス、小売店主など ④医師、裁判官、弁護士など ⑤教師、保育士など ⑥小説家、翻訳家、評論家など ⑦作曲家、演奏家など ⑧写真家、まんが家、デザイナーなど ⑨整備工、機械工、大工など ⑩造園業、農業、漁業、林業など ⑪看護師、相談員、介護福祉士など ⑫調理師、理容師、美容師、ホテルマンなど ⑬タレント、俳優、モデルなど ⑭スポーツ選手、インストラクターなど ⑮運転士、航海士、パイロットなど ◎P.26②を参考に自分のなりたい職業、興味のある職業をP.27③(1)に記入して交流し、仲間がさまざまな職業に関心をもっていることを知る。 ・デザイナーになりたい。 ・なりたい職業は決まっていないが、パソコン関係の仕事に関心がある。 ◎P.27③(1)の自分のなりたい職業、興味のある職業は、資料編③の自分の特性を参考に自己分析する。 ◎資料編③の分析結果などからP.27③(2)を考える。 ◎今後の職業調べに向けて、知りたいことや相談したいことを考えP.27④に記入し、職業調べにどんな方法があるか考えさせる。	・必要に応じて教師の補足説明を行う。 ・資料編③を前もって行ったり、もう1時間設定して自己分析を行う。 ・特性が判断できない生徒には自己理解の大切さを確認する。 ・仲間の考えに共感させるとともに、進路計画をより深く考えるために職業調べが必要であることを知らせる。 ・先輩や身近な人に聞く。 ・図書館やインターネットでいろいろな職業への道を調べる。 ・様々な体験実習やイベントに参加する。	・P.26② ・P.73、P.74を参考にする。 ・P.27③(1)資料編③ ・P.27③(2) ・P.27④
まとめの活動	・将来の職業について深く考えている生徒を紹介し、職業調べに対する意欲を高める。	◎積極的に職業調べをしたいと思っている生徒を紹介し、職業調べの方法についてまとめる。 ・私は子供が好きなので保育さんになりたいと小学校のころから考えています。ですから必要な資格や免許については知っているけど、私に本当にできる仕事かどうか不安なので、ぜひ幼稚園で体験学習をしたいと考えています。	・積極的に職業調べをしようとする意欲をもたせる。 ・職場体験学習を行っている学校では、その行事にふれてもよい。職業に関する本や資料を紹介するとよい。	資料について確認しておく。